資料１

手引書の位置づけ

- R3年度調査を踏まえ、災害ケースマネジメントの標準的な取組方法等について整理（標準化）
- R3年度調査を通じて把握した課題を整理（論点化）し、論点ごとの対応を検討
- これまでに把握できていない部分を補充するために、自治体等へのヒアリングを実施
- 使い易い手引書にするために、自治体への意見聴取を実施

Ｒ３年度　災害ケースマネジメントに関する取組事例集

取組状況調査、取組事例（８団体）

取組状況等の調査を踏まえた課題

（標準化）　（論点化）

Ｒ４年度　災害ケースマネジメントに関する手引書

「手引書」の構成案　※【資料３－１】参照

- 平時の実施体制・取組
  - 平時の実施体制
  - 地域防災計画等への言及
  - 人材の確保・育成
  - 支援策の制度理解・周知　等
- 避難生活～応急仮設住宅～生活再建等段階以降の実施体制・取組
  - 実施体制
  - 支援対象者の把握方法、設定方法
  - ニーズ調査
  - 支援方法（見守り・相談支援等）
  - 個人情報の共有、本人同意の取得

等

手引書作成に係る論点 ※【資料３－２】参照

- 人的・財源リソースの確保
- 関係者団体との関係構築、役割分担
- 活用可能な支援制度の周知
- 支援制度が求められるニーズ
- 計画・ガイドライン等の整備
- 研修等の実施体制、内容
- 知識・対応スキルの継承
- 自治体規模や災害種別に応じた対応
- 支援の早期対応・長期化対応
- クラウド型被災者支援システムの活用

等

事例集では把握できていない部分を補充するために、追加ヒアリング　※【資料４】参照